

IDNo.	号数	年月	著者	題目	ページ	備考
737	330	H14. 4	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは？(その八) 大航海時代のスナップ・マッチロック について	01～26	
738	331	H14. 6	霜 礼次郎	伝来火縄銃のルーツは？(最終回)	01～07	
739	331	H14. 6	中原 正二	中国遺棄化学兵器の廃棄について	08～15	
740	332	H14. 7	中原 正二	1400年頃の黒色火薬	01～13	
741	332	H14. 7	霜 礼次郎	種子島に火縄銃を伝来したのはポルトガ ルの傭兵か	14～37	
742	333	H14. 9	霜 礼次郎	アジアにおけるスナップ・マッチロック (伝来火縄銃)の伝統について	01～11	
743	333	H14. 9	中原 正二 訳	(火術書)1400年頃の中世ドイツの黒色火 薬(2)	12～22	
744	334	H14. 10	中原 正二 訳	(火術書)1400年頃の中世ドイツの黒色火 薬(3)	01～13	本号より横書き
745	334	H14. 10	峯田 元治	うどん張りの筒 尾栓雌ネジ製造例	14～24	
746	335	H14. 11	中原 正二 訳	(火術書)1400年頃の中世ドイツの黒色火 薬(4)	01～12	
748	335	H14. 11	霜 礼次郎	イスラム文化と火砲について	13～49	
749	335	H14. 11	峯田 元治	幕末の英傑 小栗上野之介の大砲(1)	50～54	
750	別冊	H14. 11	池田浩理・中津章	日野・小室式自動装填式拳銃の諸元		進呈 著者
751	336	H15. 2	中原 正二	(火術書)1400年頃の中世ドイツの黒色火 薬(5)	01～11	
752	336	H15. 2	霜 礼次郎	火器の誕生とヨーロッパの戦争(その1)	12～33	
753	336	H15. 2	島津 兼治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第八回	34～51	
754	337	H15. 3	中原 正二 訳	(火術書)1400年頃の中世ドイツの黒色火 薬(6)(最終回)	01～15	
755	337	H15. 3	霜 礼次郎	火器の誕生とヨーロッパの戦争(その2)	16～33	
756	337	H15. 3	島津 兼治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 第九回	34～55	
757	338	H15. 4	霜 礼次郎	火器の誕生とヨーロッパの戦争(その3)	01～26	
756	338	H15. 4	成 東	資料紹介 載梓の連発式鉄砲は機関銃と いえるか (成 東)	27～29	
757	339	H15. 5	峯田 元治	幕末の英傑 小栗上野之介の大砲(2)	01～08	
758	339	H15. 5	霜 礼次郎	中島流の火縄銃について	09～32	
759	340	H15. 6	霜 礼次郎	火縄銃銃身のルーツについて (特にヨーロッパ古銃と和銃との比較)	01～12	
761	340	H15. 6	生田 豊太郎	インターネット上の火縄銃に関して	13～19	
762	341	H15. 9	峯田 元治	江戸後期の火縄銃尾栓ネジ構造の比較	01～10	
763	341	H15. 9	島津 兼治	日本火術探囊 徳永系図に依る伝来試考 (王直について)	11～29	
764	342	H15. 10	岡崎 清	彦根城博物館銃砲関係史料について	01～07	
765	342	H15. 10	中原 正二・ 峯田 元治	彦根城博物館蔵毒烟処方「慶軍毒烟法」 「嚴霞毒烟法」と中島流	08～21	共著
766	343	H15. 11	山田 太郎	成東著「載梓の連発式鉄砲は機関銃とい えるか」について	01～13	
767	343	H15. 11	霜 礼次郎	オスマントルコの火縄銃	14～35	
768	344	H16. 3	島津 兼治	徳永系図に依る伝来試考(七)東洋遍歴記 と日本資料	01～22	
769	344	H16. 3	山田 太郎	日本海軍火薬工廠年表	23～39	
770	345	H16. 7	今津 浩一	ペリー提督の地図と大砲 ーペリー提督 の日本地図と浦賀役人の軍事知識ー	01～17	
771	345	H16. 7	山田 太郎	日本海軍東京造兵廠年表	18～29	
772	345	H16. 7	質疑 応答	宇田川先生を囲んで(04年5月8日)	30～32	
774	346	H16. 9	中原 正二	日本銃砲史学会の活性化を ー理事長に就任してー	01～02	
775	346	H16. 9	板橋区立 郷土資料館	シンポジウム「日本の砲術ー和流砲術から西 洋流砲術へ」の開催について	03～04	第346特別号